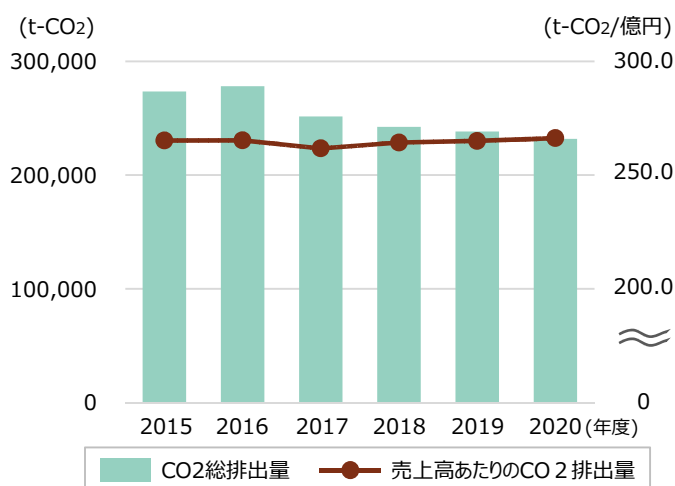


■ 全社のCO₂排出状況

AGFグループは、バリューチェーン全体（事業プロセスごと）での環境影響をCO₂排出量に換算して定量的に把握し、削減活動に役立てています。2009年度以降、売上高あたりのCO₂排出量は継続して減少しています。事業プロセスの中では、原料、包材、製造で約9割を占めています。2015年度から2020年度にかけて、CO₂の排出量を約19%削減できました。

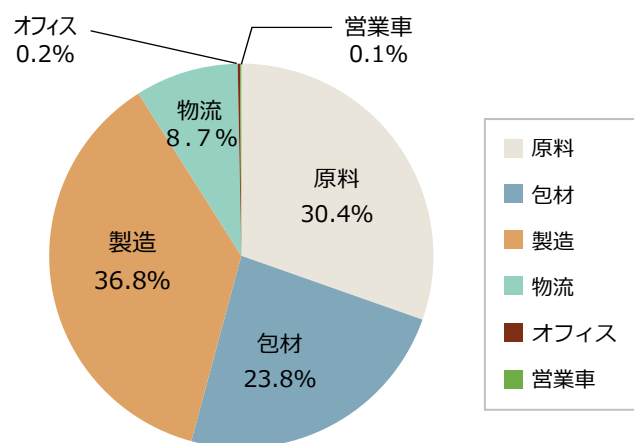
■ CO₂総排出量の推移



※時系列で比較できるように、2015年度の会計処理基準にて、各年度の売上高を補正しています。

AGF®調べ

■ CO₂総排出量の構成比（2020年度）

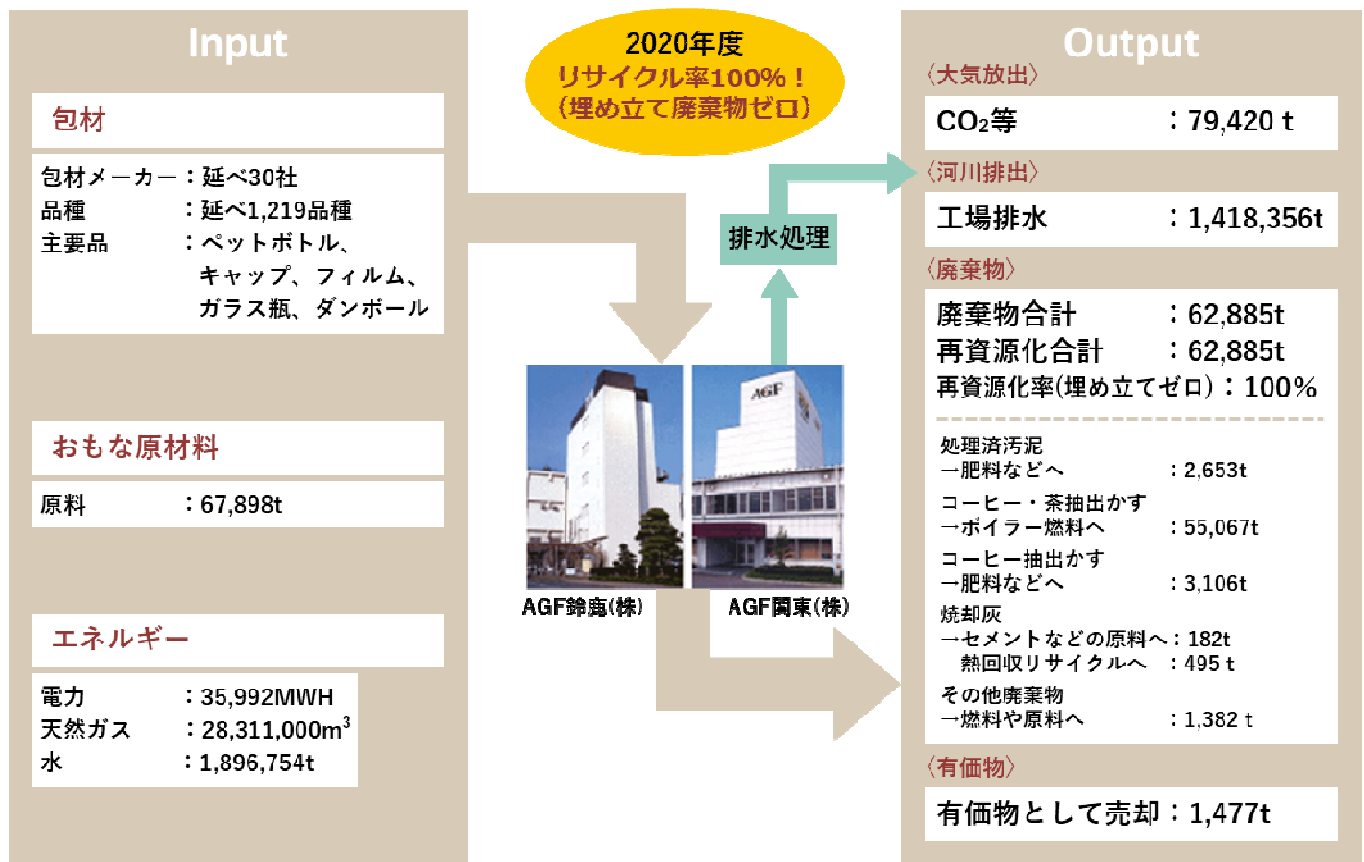


2. 「生産」段階での取り組み（マテリアルバランス）

■環境負荷の全体像（マテリアル・バランス）

環境負荷の最も大きな事業プロセスである“製造プロセス”に関しては、AGF鈴鹿(株)とAGF関東(株)の両生産関係会社が環境負荷の全体像（マテリアル・バランス）を作成し、環境影響を定量的に把握しています。

■2019年度：AGF鈴鹿(株)+AGF関東(株) 環境負荷の全体像（マテリアル・バランス）

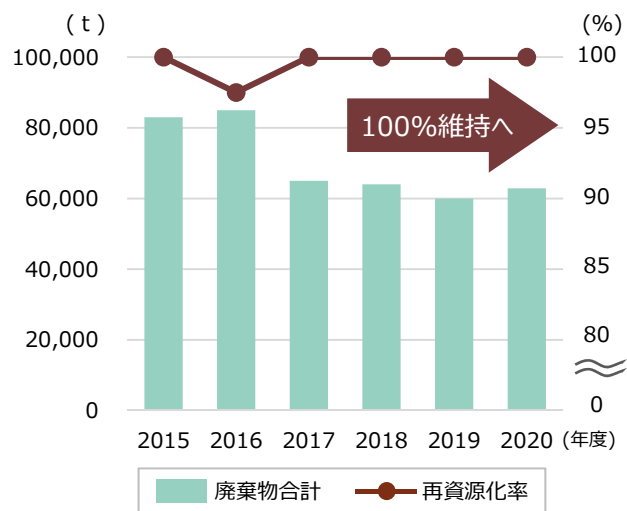


■ 廃棄物のリサイクル

AGFグループは、2017年7月に、工場・オフィス・物流で生じる全廃棄物のリサイクル100%（ゼロエミッション）が可能な体制を整備しました。

2017年12月にリサイクル率100%を達成し、以降継続しています。

■ 廃棄物の排出量と再資源化率の推移



AGF®調べ



ゼロエミッションとは

廃棄物（エミッション）を限りなくゼロに近づけることにより、循環型社会を構築しようという考え方。

4. 工場の主な生産工程における廃棄物リサイクルの状況



■工場の主な生産工程における廃棄物リサイクルの状況



5. 再生可能エネルギーとしてのコーヒーかすの活用 取り組み事例①②

■ コーヒーかすの有効活用

AGF鈴鹿(株)、AGF関東(株)では、ゼロエミッション活動の一環として、工場から出るコーヒーかすなどの有効利用に取り組んでいます。

取り組み事例 ①

【AGF鈴鹿(株)】 コーヒーかす・茶かすの再生可能エネルギーとしての活用



AGF鈴鹿(株)では、コーヒーと茶の抽出かすを、工場内の専用ボイラー燃料として使用しています。

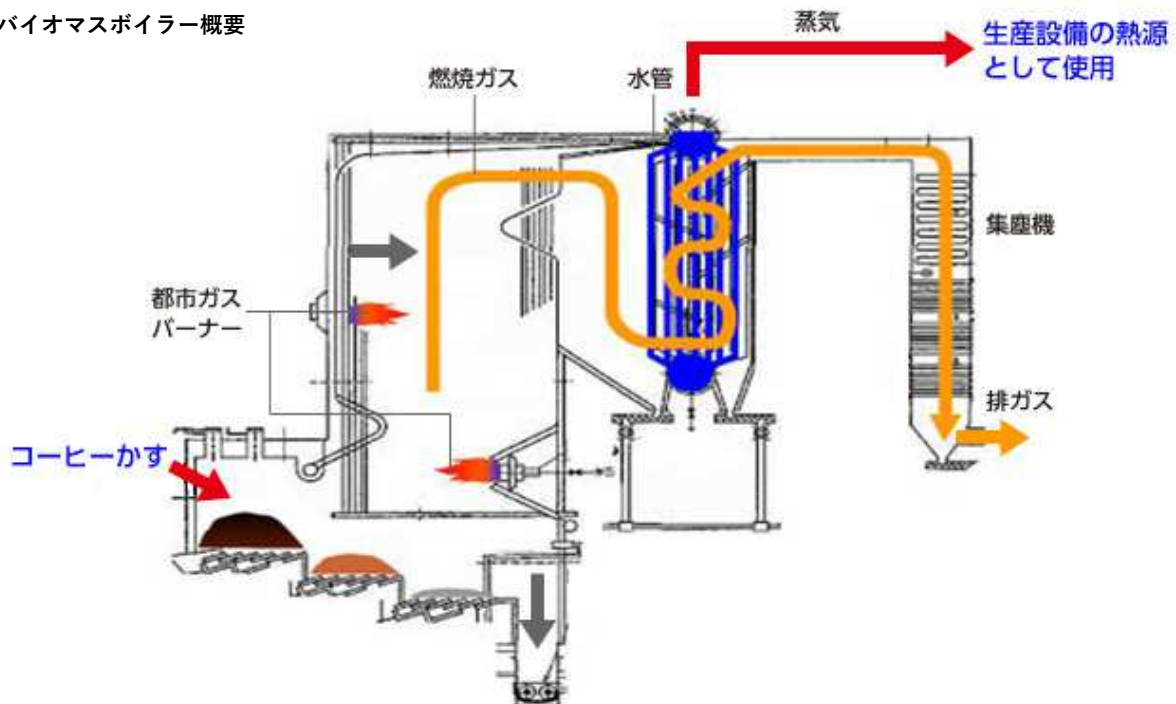
都市ガスとコーヒーかす・茶かすの燃焼ガスで水管を熱して蒸気をつくり熱回収し、再生可能エネルギーとして工場の使用全エネルギーの約15%以上をまかっています。



再生可能エネルギーとは

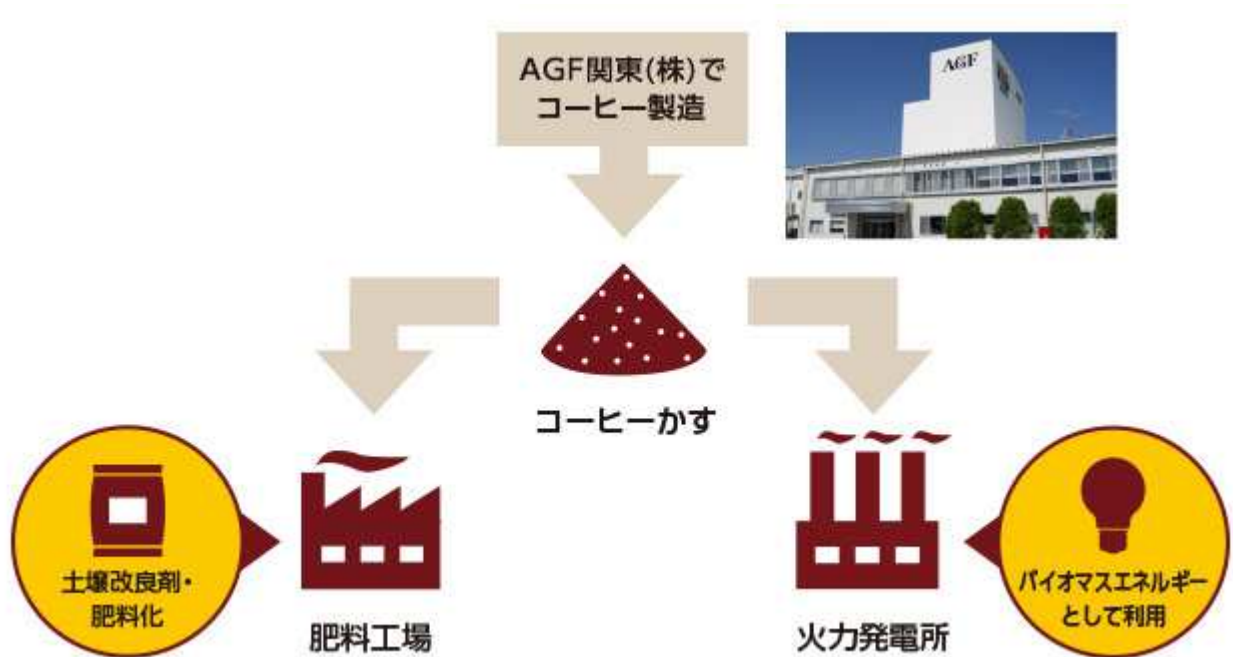
エネルギー源として持続的に利用することができる、太陽光、風力、水力、バイオマス等が該当し、発電時や熱利用時にCO₂をほとんど排出しない優れたエネルギーです。

■ バイオマスボイラー概要



【AGF関東(株)】 コーヒーかすの有効利用

AGF関東(株)では、コーヒーの抽出かす全量を肥料や土壌改良材のほかに、再生可能エネルギー（バイオマス）として火力発電所の石炭燃料の代替に、100%再利用されています。



6. 工場のエネルギー効率改善

AGFグループは、生産工場での設備改善、設備投資を積極的に進め、工場での省エネルギー活動を推進し、CO₂発生抑制に取り組んでいます。

取り組み事例

【AGF鈴鹿(株)】 【AGF関東(株)】 コージェネレーションの活用

発電機用エンジンの排熱を利用して、蒸気を発生させるコージェネレーションシステムを導入し、総合エネルギー効率を高めています。

コージェネレーションの活用により、年間約6,000トンのCO₂削減につながっています (AGF®調べ)。

約6,000トン/年の
CO₂削減

(AGF®調べ)



AGF鈴鹿(株) (1998年導入)



AGF関東(株) (2007年導入)

【AGF鈴鹿(株)】 冷水用冷凍機の更新投資

2016年、AGFグループの生産工場である、AGF鈴鹿(株)の冷水用冷凍機設備投資により、年間約1,000トンのCO₂削減を実現しました (AGF®調べ)。

約1,000トン/年の
CO₂削減

(AGF®調べ)



冷水用冷凍機

7. コーヒー豆のバルク輸送

AGFグループは、海外からコーヒー豆を輸入する際、コンテナの大きさにあわせた大きな袋（インナーバッグ）にコーヒー豆を詰めたコンテナバルク輸送を行うことによって年間約750トンのCO₂削減を実現しています（一部麻袋での輸入もあります）。（※AGF®調べ）

1. コンテナ積載率の向上（物流コスト+CO₂の削減）

- ・従来の麻袋 1コンテナあたり17~18トン⇒バルク 1コンテナあたり20~21トン(10~12%増量)

2. 品質の安定性

- ・船積み前のサンプル評価により、良質な豆のみを選別
- ・輸入時に1コンテナごとに確実な品質確認を実施

3. 受け入れ工場でのハンドリングの容易さ

- ・一度に20~21トンの投入が可能

CO₂排出削減量
約750トン/年

(AGF®調べ)



8. コーヒー豆の荷揚げ港変更

AGF鈴鹿(株)で生産に使用するコーヒー豆を輸入する際、従来、名古屋港で荷揚げしていましたが、2005年以降、四日市港に変更しました。その結果、港からAGF鈴鹿(株)までの輸送距離が半分になり、環境負荷の低減を実現しました。

AGF関東(株)で使用する分は、群馬県の太田国際ターミナルを利用しています。

■輸送距離の比較



■AGF関東



9. ボトルコーヒーの地域別拠点配送体制

AGFグループは、ボトルコーヒーの物流効率の向上と環境の負荷低減を目指し、2ヶ所の生産拠点からの効率的な配送体制を整えています。

■ 配送体制地図



10. エコシップマークの認定

AGFグループは、長距離輸送で商品を運ぶ際に、海上貨物輸送を活用した物流への環境負荷低減の取り組みが評価され、2017年7月「エコシップマーク」使用の認定を受けました。

エコシップによるモーダルシフトにより、CO₂削減を行っています（AGF®調べ）。



エコシップマークとは

国土交通省を含めた選定委員会により、環境にやさしい海上貨物輸送に取り組んでいる物流事業者等が輸送される製品及びそのパッケージ等につけられるマーク。



モーダルシフトとは

国内の貨物輸送を、トラック輸送から大量輸送機関である鉄道または海運に転換することです。

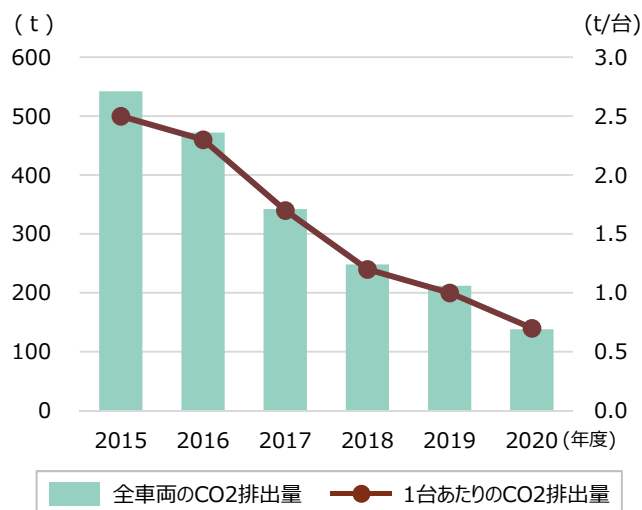
11. 営業車のCO₂排出削減

AGFグループの営業部門では、営業車のエコカー導入を進めるとともに、エコドライブを推奨し、車両の燃費を向上させ、省エネとCO₂発生の抑制に取り組んでいます。

取り組み事例

エコカーの導入

ハイブリッド車やコンパクトな低燃費車の導入を順次進めています。2019年12月末時点で営業車の94%の導入が完了、継続して導入を進めています。これらの結果、2020年度約400トン（2015年度比）約75%のCO₂削減を行いました。



2020年度
約**400**トンの
CO₂削減
(2015年度比 AGF®調べ)

AGF®調べ

オフィスでの省エネルギー活動を推進し、CO2発生の抑制に取り組んでいます。

取り組み事例

- ・ 蛍光灯のLEDへの変更および間引き
- ・ 日次または月次の空調実績確認のうえ、対策実施
- ・ 社内への空調使用後の停止の徹底
- ・ 空調消し忘れ防止ステッカーの掲示
- ・ 朝夕の個別空調消し忘れチェック
- ・ 必要場所以外の個別空調の停止



2019年度は2016年度比20%CO2排出量を削減することができました。今後もCO2削減活動を推進してまいります。

■ 「グリーン電力証書」の購入による再生可能エネルギーの使用比率向上

2018年4月より「グリーン電力証書」の購入に関する契約を、日本自然エネルギー株式会社と締結しました。

このことにより、本社・営業拠点の年間使用電力（80万kWh）の100%をグリーン電力を使用したとみなされます。

「グリーン電力証書」の購入により、再生可能エネルギー利用率の向上を進めています。



本社・営業拠点の電力すべてが木材を使ったバイオマス発電によるものです



グリーン電力証書とは？

自然エネルギー（再生可能エネルギー:風力、太陽光、バイオマス（生物資源）など）で発電された電気の「環境価値」を証書化したもので、証書発行事業者から購入します。

13. “フードロス削減”と“物流効率化”を目指して

(1) 賞味期限の「年月」表示の取り組み

賞味期間が9ヵ月以上の家庭用商品のうち162品目について、賞味期限表示の「年月日」から「年月」への変更およびそれに伴う賞味期間の延長を2017年7月1日より順次実施し、完了しました。これにより、製造・配送・販売によるサプライチェーン全体にわたる“フードロス削減”や“物流効率化”への貢献を目指します。

【賞味期限表示例】

現行：
「年月日」表示

賞味期限(開封前)
製造所固有記号/管理記号
2018.06.02
+ S/024902B

変更後：
賞味期限を延長して
「年月」表示

賞味期限(開封前)/商品記号
製造所固有記号/管理記号
2018.06/HF
+ S/095114A

(賞味期限を1ヵ月延長)

(2) フードバンク協力による福祉施設等への支援と食品廃棄削減への取り組み

AGFグループでは2008年からフードバンクへ出荷期限が超えてしまった商品を寄贈しており、現在6つのフードバンク団体を通じて、支援活動を継続しています。2020年度には、当社のコーヒースティックなど約73.8トン1,150千杯分を提供し、食品廃棄の削減に取り組むと共に、今後も、コーヒーを通じて、ココロの安らぎをお届けしていきます。

14. 栄養への取り組み

AGFグループでは、「ブレンディ®」スティック エスプレッソ・オレ 微糖、「ブレンディ®」スティックカフェオレ 甘さなし等、減糖に配慮した製品を提供しています。また、脂肪分を50%カットしたクリーミングパウダー「マリーム®」低脂肪タイプを開発・販売しています。

また、栄養改善にあたって、個別製品・メニューの栄養素の質と量を適正にすることに着目しています。そのため、必要な栄養素の補給も重要と考えて、栄養素を付加する製品も開発・販売しています。

減糖



減脂



微量栄養素

